

■ ビニル床タイルの基本施工法と手順

適用範囲	この施工方法は、ビニル床タイルの基本的な工法について適用する。 【当該現場の使用床材：(マティル NW)】
接着剤の選定	接着剤の選定につき指示がある場合はそれに従い、ない場合は当社指定の接着剤を使用する。 【当該現場の使用接着剤：(別紙参照ください)】
材料の搬入・保管	- 材料を指定の場所に搬入し、数量とロットの確認を行う。 - 複数ロットで入荷している場合は、施工箇所毎に材料の積み分けを行い、混同使用がないようにする。 - 床タイルは癖がつかないよう水平な状態を保ち、積み重ね段数は1 m以下とする。タイルを重ねて養生や保管をする場合は、辺を合わせてきれいに積み重ねる。接着剤と共に5℃～35℃の室内で直射日光の当たらない所に保管する。
下地の点検・調整	- 下地の乾燥、強度、平滑度などについてチェックする。 - 乾燥の目安は、高周波水分計 HI-520(または HI-520-2)を使用する場合、選択ダイヤルを D.MODE、厚さ 40mm に合わせた時の指示値が 620 未満とする。但し、440 以上 620 未満の場合には耐水型の接着剤を使用すること。 - 点検の結果、著しい不都合がある場合は、協議のうえ下地補修材『フラッターⅡ』などで下地の調整を行う。
ケレン・清掃	下地の突起などは確実にケレン除去し、電気掃除機などで下地面をよく清掃する。
割り付け	割り付けの方法に特別の指示がある場合は、指示のデザインに従う。それ以外の場合は、原則として材料のロスが少なく、周辺部に極端に小さなカット物(元のサイズの 1/2 以下のもの)が入らないように割り付ける。
低温時の施工	貼り付け時の室温が5℃以下の場合は、接着強度が得られないので中止とする。やむを得ず施工する場合は、ヒーターなどで採暖して、室温を望ましくは15℃以上に保つ。
接着剤の塗布	- 接着剤の塗布は、規定のくし目ごてを使用し、作業中くし目がすり減った場合は調整を行う。 1回の塗布面積は、貼り付け可能時間以内に床タイルを貼り終える面積とし、壁際・柱回りは中央部を貼り終えた後、接着剤を塗布する。

オープンタイム	・ オープンタイムは、接着剤・下地の種類、温湿度、通風などにより異なるが、接着剤の皮膜にベタツキが生じる状態を目安にする。
貼り付け	・ 床タイルを 12 時間以上室温に馴染ませたのち、目地を詰めすぎないように施工する。基準線に沿わせ目地を通して壁際に向かって貼り込む。壁際・柱回りなどの最後の 1 列を残して貼り込み、これらの部分は最後にまとめて貼り上げる。 ・ 壁際に貼る床タイルは、最後の列の床タイルに正確に重ね、別の床タイルを壁際に当てるなどして採寸を行い、カッターナイフなどで切り込む。厚物の床タイルでは、切り口が盛り上がることもあるので、軽くカンナがけをして修正する。
圧 着	・ 平場は 45 kg ロールなど全面に、壁際・カット部はハンドローラーなどを使用して、圧着可能時間内に良く圧着する。 ・ 冬期の施工では、貼り付け時の圧着を入念に行う。
階段の貼り付け	・ 階段幅を測定し、左右に同寸法の床タイルが納まるように基準線を決め、割り付ける。左右それぞれの壁際の残り幅が床タイルの 1/2 以下の場合、どちらかに床タイルを半分ずらした位置を基準線とする。接着剤は、けこみ・踏み面共に当社指定の接着剤を使用する。 ・ 順序はけこみを先に貼り、次に踏み面を貼る。 ・ 階段の寸法に合わせ、床タイルを精度良く裁断し、けこみは階段滑り止めが飲み込むように貼り付け、ハンドローラーで十分に圧着する。
施工後の点検	・ 目違い、浮き、汚れなど不具合の有無を点検し、不具合がある場合は処理を行う。
養 生	・ 施工完了後、関連業者などの土足による床面の汚染・損傷を防ぐため、土足を禁じ、歩行量の多い場所には養生シートなどで覆う。
仕上げ・清掃	・ 表面仕上げは、接着剤の硬化後(水性系は 2 週間、溶剤系は 1 週間)に汚れを洗浄し、乾燥させる。 ・ 床メンテナンス剤を塗布する場合は、予め床洗浄剤で洗浄すること ・ 使用する床メンテナンス剤は、メンテナンスマニュアルによる。